

26年10月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 9月20日～ 26年10月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
仕入動向	国産材製材品	△ 6.3	△ 25.0	△ 31.3
	外材製材品	△ 12.5	△ 12.5	△ 25.0
	構造用集成材	0.0	△ 14.3	△ 14.3
消費動向	国産材製材品	12.5	△ 6.3	△ 18.8
	外材製材品	0.0	△ 6.3	△ 18.8
	構造用集成材	21.4	△ 7.1	△ 14.3
在庫動向	国産材製材品	△ 12.5	△ 31.3	△ 31.3
	外材製材品	△ 31.3	△ 37.5	△ 37.5
	構造用集成材	△ 14.3	△ 28.6	△ 28.6

・プレカット加工用部材の仕入れは、国産材、外材とも3ヶ月連続しての減少、構造用は10月の横ばいが11月、12月は減少に。
・消費の動向は、国産材製材品及び構造用集成材は10月の増加が、11月、12月共に減少に、外材は10月の横ばいが11月、12月には減少に。
・国産材製材品、外材製材品及び構造用集成材の在庫は、3ヶ月連続して減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/10月	11月	12月
受注	31.3	0.0	△ 18.8
加工	25.0	6.3	△ 12.5
受注残	12.5	△ 6.3	△ 12.5

・受注は10月の増加が、11月の横ばいを経て12月には減少へ。
・加工は10月、11月の増加が12月には減少へ。
・受注残は10月の増加から11月、12月は減少

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・自社製材ボリューム拡大中、消費は高水準で推移、在庫減少傾向。
- ・仕入れは在庫を平均して持つように、プレカットが全体的に少ないため消費量は少ない、デッドストックの活用で在庫調整。
- ・今のところ需給バランス取れている。今後の消費動向で資材供給が心配。

(受注動向)

- ・受注・加工とも堅調に推移。
- ・消費税の反動が予想以上に大きく非常に厳しい。
- ・秋需に入り急に忙しくなってきた。